

本セッションでは、生物膜による下排水処理法の報告が4編(うち1編はキャンセル)、地下水の生物処理が1件、EPSの抽出法に関する報告が1編であった。

3F-10-4, 3F-11-4 は下水のUASB処理後のDHSリアクターについての発表であり、3F-10-4 はリアクター内のスポンジ担体の型式による違いを明らかにしたものである。インドにおける長期間の運転と、詳細なデータ分析による信頼性のある報告であり、処理性能の向上につながる有用な知見が得られていた。3F-11-4 はDHSリアクター内の主に原生生物の群集構造を調べたものであり、発表者らが最近注目している原生動物が処理性能に与える影響を解明できれば、今後の運転指標として重要な意味をもつものとなると期待できる。

3F-11-1 では、高濃度硫酸含有排水の処理に発表者らが提案するリン回収DHSを適用した場合の運転方法について検討したものであり、様々な工夫をしながらリン回収を成功させており、聞きごたえのある発表であった。生物膜処理におけるリン回収法の一つとして興味深い内容であり、今後の展開が楽しみである。

3F-11-2 は活性汚泥のEPSの抽出方法を比較した内容であり、多角的に詳細な検討がなされた発表であった。本セッションの中では異色の内容であり、活発な議論ができなかったことがやや悔やまれる。3F-11-3 は地下水の過塩素酸の生物膜による除去について検討したものであり、多くの課題が残るが、今後の展開を期待したい。3F-12-1 は、塩分濃度の高いフェノール含有排水の好気性グラニューール処理につての報告であり、良好な処理性能が得られているが、発表がキャンセルされたのは残念であった。

3F-11-2, 3F-11-3 および 3F-11-3 は、韓国からの報告であり国際性のあるセッションであったが、他の発表と内容が異なるためか、質問は少なかった。今後、海外からの発表において、積極的なディスカッションができるような工夫が必要であると感じた。

(金沢大 池本 良子)